

巻頭言

理事長 山本 章

令和5年を迎え、ようやくコロナ禍から抜け出られそうになりました。マスク着用義務が緩和され、新型コロナウイルスのインフルエンザ並みの扱いが始まるようです。

ところで本誌前号で書類提出をお知らせした社福化について市当局の審査が終わり、ようやく近々結論が出るようです。この間、青葉の樹・メンタルサポートあおば・アトリエ木の実の三NPO法人からなる準備委員会の皆さんに、普段の業務をこなしながら膨大な書類づくりをしていただきました。感謝に堪えません。

社会福祉法人というと、従来から土地や建物などの財産を持った人たちが申請していたようで、私たち三法人のような、財産と言えるものが何もない申請者は、どうやら異例中の異例だったようです。

このため申請書を受け取った行政の側にも戸惑いがあった、と感じられました。しかし、青葉の樹

のスタート時点から何かとお世話になっている市会議員の横山先生の応援もあって、近々認可証が届くものと期待しています。

但し社福化が達成できたとしても、現在地域生活センターやグループホームの利用者にも、お世話させていただいている職員の皆様にも、当面法人名が変わるだけでほとんど変わることがないと思われます。せいぜい、どこかで会ったことのある三法人の利用者や職員が一つの傘の中に入って、大所帯になった感じが出始めることぐらいでしょうか。

何が変わるかという、青葉区を中心にまだご縁のない方々の自立支援の機会が増えることと、そのお世話をしていただく支援職員やボランティアの人数が増えることだと思います。また運営にあたる立場から言うと、各事業所の自立事業の継続性について、不安感が少し減ることぐらいでしょうか。

いずれにしても、楽しみな一年になりそうです。

社会福祉法人化設立準備委員会報告

事務局長・準備委員 鷹野 薫

1997年7月「地域作業所ネバーランド青葉」開設から2023年の今日までの26年間、職員ご自身の体調不良、ご家族の看護・介護等止む得ない事情で退職されるなど、青葉の樹は「ピンチ」の連続でした。

そんな中、青葉区生活支援センターの運営母体NPO法人メンタルサポートあおばの理事会に理事として参加し交流する機会を通じ、NPO法人木の実の会、青葉の樹、メンタルサポートあおばの三法人とも、「いつも人手不足」という同じ悩みを抱えていることが分かりました。

そこで2016年、青葉の樹とメンタルサポートあおばで「今後の精神保健福祉事業の在り方研究会」を立ち上げて事業の持続可能性を探ったところ、社会福祉法人の設立要件が、2014年4月から「共同生活援助事業（グループホーム事業）を5年以上運営していると1000万円以上の預金等」に緩和されていることが分かりました。（普通は1億円以上で、とても手が届きそうにない額です。）

さらに2019年10月には、青葉区精神障害者家族会あおば会から「各法人がバラバラに活動するのではなく一つになって活動して欲しい」との提案があり、社会福祉法人設立準備委員会の活動を始めました。

設立準備委員会は40数回を重ね、三法人の理事・職員・会員の意思集約や合意を繰り返し、「社会福祉法人あおばの実」の設立の方向性が決まりました。そして横浜市の関係部署のご指導を受けつつ、2022年12月正式に社会福祉法人設立認可申請書を提出の運びとなりました。

ここに至るまで、行政機関、市会議員、NPO法人から発展して社会福祉法人になった先輩法人など多くの方々に貴重なご助言や、資料提供などを頂いたことに深く感謝申し上げます。

社会福祉法人への移行について説明会開催

職員は、各事業所毎に資料に基づき、社会福祉法人の組織、就業規則、給与規定、当座の経過措置等について鷹野事務局長から説明を受けました。

11月3日区民まつりが開催されました。東急多摩田園都市情報連絡会様も「東急宝市」を出店され、その売り上げの一部を青葉の樹にご寄付いただけることになりました。誠にありがとうございます。

🌸 虐待防止研修会を開催（令和5年(2023)1/31）

職員は、精神障害者就労支援センター（パートナー）の前センター長 村上裕輔氏を講師に、「虐待の防止と利用者の人権」について学びました。

その後、三つの班に分かれてグループワークを行い発表しました。

- ① 朝日新聞の記事（注）を事例として挙げ、施設がとった措置をどう思うか
- ② 利用者にとって居心地の良い場所とは、
- ③ 職員にとって働きやすい職場とは

講師からは、①については、人権意識をブラッシュアップすべき、②については、権利が保障されていると利用者を感じられている、将来について希望を持つ事ができ、自分のことは自分で決められる場所であること。③については 職員間の風通しを良くし、支援を共有し抱え込まないこと。定期的に研修を行い、業務の見直しをする、うまくいった事例を共有することが大切等の助言をいただきました。

＜参加した職員の声＞

- ・支援者が伝えたい思いと、当事者の受取り方にギャップがあり、威嚇されたと感じたり、誘導されたと感じることがあるのだと思った。
- ・なにより信頼関係を築くこと。そして丁寧な説明を心掛けることが大切。
- ・支援者と利用者（人対人）にはギャップがあることを忘れずに、その都度問いかけていけば継続的な虐待にはならないと思った。
- ・普段一緒に仕事をする事のない他の事業所の職員と意見交換ができた貴重な機会でした。
- ・職員のストレスや感情のコントロールができて起こる虐待が多いことは身につまされる。
- ・職員同士がなんでも話し合え、時には愚痴も許してもらえ職場でありたい。

（注）2022年12月20日付朝日新聞：北海道江差町の知的障害者施設を利用する男女が結婚や同居を望んだ場合、不妊処置をするよう施設側が提示していた。

🎵 ネバーランド青葉 🎵

◆ 恩田地域ケアプラザ 10周年記念イベントに出店・・・2022年10月15日（土）

自主製品（デコパージュ石鹸、カラーキャンドル、バスボム）と玩具くじを販売。メンバーさんも販売に参加し、子どもさんも大勢見えて、玩具くじとデコパージュ石鹸は完売という嬉しい成果がありました。



◆ 青葉区民まつり参加・・・2022年11月3日（木・祝）

「ほっとサロン青葉」、「トライアングル」、「アトリエ木の実」との合同ブースで、自主製品（デコパージュ石鹸、カラーキャンドル、バスボム、ティッシュケース）を販売。ネバーランドは久しぶりの区民まつりへの参加でした。大勢の区民の方が来場し、自主製品の売り上げも好調、大盛況でした。

◆ 社協主催の障害者週間キャンペーンバザーに参加・・・2022年12月6日（火）



デコパージュ石鹸(左)とバスボム

市ヶ尾駅で他の事業所と合同で自主製品（デコパージュ石鹸、バスボム、ティッシュケース）を販売しました。メンバーさんも販売に参加し、道行く人に声掛けを行ったところ、購入して下さる方々もいらっしゃいました。クリスマスシーズンに合わせた絵柄のデコパージュ石鹸や、寒い季節ということもあって、バスボムの売れ行きが好調でした。

♪ グループホーム 青葉マナ ♪

青葉マナは今年で 19 年目を迎えました。今年も青葉区社会福祉協議会より年末たすけあい募金の配分を頂く事が出来ましたので、椅子を購入しました。19 年間職員と一緒に頑張って来た椅子に、よく頑張ったね。お疲れさん」とお礼を、新しく購入した椅子には、「これからサポートよろしくね。」と心の中でつぶやくようにお願いしました。



~~~~~

## ♪ グループホーム はじまりの家 ♪

### ◆新しい利用者紹介

- ・Oさん：8月に入居しました。建デポで働いています。趣味はDAZNでサッカーやボクシングを観る事です。自己満足せずに周囲の助言を聞きながら生活をしていきたいと思ひます。
- ・Fさん：9月にサテライトに入居しました。よろしくお願ひいたします。

### ◆新しいスタッフ紹介

昨年6月より勤務している阿久津知子と申します。グループホームの仕事は初めてですが個性を大切に、一人一人に寄り添った支援をさせて頂きたいと思ひます。

「助成金」に支えて頂き、利用者の方の生活を維持しています

前号でお伝えしたように昨年7月に「公益財団法人あすなろ福祉財団」から初めて100万円を超える大きな助成金を頂き、老朽化した給湯器7台を新しくすることができました。お金のかかることについては助成金が頼みの綱です。あすなろ福祉財団や社会福祉協議会、そしてたくさんの福祉財団の助成金を受け必要なものを購入してまいりました。

改めて皆様のご厚意に感謝申し上げます。

~~~~~

♪ グループホーム コーポYOU ♪

◆防災訓練のため防災センターへ

11月9日、神奈川県総合防災センターに行きました。地震（最大震度7）や強風（最大風速30m）の体験、館内の展示を通して、事前の準備と災害時にとるべき行動の選択がとても重要であること等を、改めて学ぶ訓練となりました。東名高速の工事中で、そのため大渋滞に巻き込まれて防災訓練の時間が減るといふハプニング付きでしたが、不満らしい発言は一言も誰からもありませんでした。メンバーさんたちの寛大さと落ち着いた対応に拍手&感謝！

訓練の後は、大山阿夫利神社にお参り。抜けるような青空のもとでお参り。たくさんバスに乗り、たくさん歩いた一日でした。皆さん、健脚でした。



◆年末たすけあい募金配分金「ありがとうございます」

いただいた配分金で、季節感を味わえる行事食の提供などを行っています。

三方良し（寄付者良し・利用者良し・世間良し）のご寄付の使い道を今後も探求していきます。

だめだ
できない

「ベッドで眠ってください
車椅子で眠らないで」

だめだ

どうしても移れない

夜中の一時頃

「ベッドで眠らないと
身体をこわします

私の責任ですから」

どうしても移れないのです。

私が移るのを手伝って下さい」

「私の腕をつかんで」

私の身体を抱きかかえるようにして
ベッドに移して下さい

布団を掛け

身体を横たえて眠った

小一時間程眠ったか

疲れがとれ体調が良くなった

トイレに行き顔を洗いで着替えて

一日が始められる

うれしい うれしい

介護人さんのご愛に支えられ
老人ホームの一日が始まった



＝人生は手ごわい＝

中井順子

政府が指針として出した
高齢者の睡眠

六時間を達成した

喜びは大きい

ついにの感じで

今日は

人とのコミュニケーションは

どうか

昼のウトウトは

まぬがれるか

手すりによるリハビリ訓練は

できるか

ご飯はおいしいか

笑顔はできるか

日々の車椅子に乗っての

ラジオ体操で

爽快感は得られるか

体力はつくか

老人ホームの一日は短い

朝六時から夕六時まで

その間に

やれることは限られている

挑戦していくことの難しさがある

やっと夢を追い続けることに

目覚めたのは

遅かったか



＝この両手でこいで＝

私が病気であることに
冷ややかな人もいる
私の過ごし方に忠告してくれる人もいる
けれどその人が身代わりになって
私の人生を生きてくれるわけではない
私は病気であるけれど
幸いに、いくらかは健康であるから
この運命の波の中をこの両手でボートをこいで
進んでいこう
それが私の道であり
私にしかできない仕事である

いつか私が灯台になり
他のボートをこぐ人達の為に
いくつも航路を発見し
描いていきたい、残していきたい
メソメソしていても進まない
気持ちを取り直して
明るく朗らかに進んでいこう
帰ってこない貴重な時間を
希望をもって生きていこう
今、私が勇氣という名の
灯台の光とともに



R4/10/21 作並 美幸